



越後国長岡表町通り木野金島の手代新次郎の圭用にて東京

へ發見せし明治元年四月廿三日其日ゆゑに長岡藩の渡辺敷貞

小出合の以 前貞具知りてらるる

道連とあり浅貝宿の参

能宿して二十五日の

朝の雪更空

逗留

ちよみ新次郎が

側の時計士と金八両外は

脱走せし新次郎の商先の世話にて

渡辺といふもの長岡の卒をやつ

上役人の看類を盗み

逃云電一族と

大錦画目新次郎 廿九号

新次郎

穴悪津りる

大雪の跡のふ

くら見ごころ天の網目も振

のまつ

罪科の遠

くらぬ内

讀う

九十三 号記

